



《こども版》 としょかんだより No. 308

2010年

2月号

わくわく本だな

富山市立図書館

今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

「おじいちゃんとテオのすてきな庭」

アンドリュー・ラースン／作 あすなろ書房



テオは、きれいな花がさくおじいちゃんのお庭がだいすきでした。でも、こんどひっこしたおじいちゃんのアパートには庭がありません。そこでふたりは、まっしろな大きなキャンバスをかってきて、花の絵をかきました。

「へーい、まいど！てんぐやです」

★ 仲井 英之／作 ポプラ社



ななが、おるすばんをしていると、とつぜんてんぐが戸口にやってきました。てんぐは、かばんの中からつみきやきんちやくぶくろ、やまざくらでそめたピンクのまくらなどをとりだし「なんでもおすきなもの5こで千円」と、いいだしました。

「妖精ピリリとの三日間」★★

西 美音／作 岩崎書店



虫が大好きなサヤコは、原っぱで光る巨大なセミをつかまえました。ところが、サヤコのお母さんや大人たちは、妖精だと言いはります。うわさはひろがり、とうとうテレビ局までやってきました。

あたらしくはいった本

えほん

「ねこなんてだいきらい！」 末崎 茂樹／作 フレーベル館

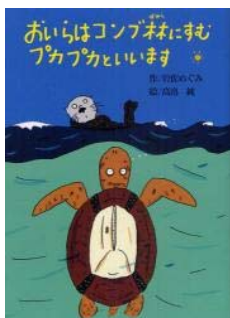


むかし、ねこがだいきらいなおうさまがいました。ある日、おうさまのへやに、いっぴきのねこがはいてきて、だいじなつぼをめちやくちやにわってにげていきました。おこったおうさまは、「くにじゅうのねこを、すべておしろにさしだすこと」と、めいれいをだします。

ものがたり

「おいらはコンブ林にすむプカプカといいます」 ★

岩佐 めぐみ／作 偕成社



クジラ岬^{みさき}のコンブ林に、つよがりできびしがりのラッコ「プカプカ」がすんでいました。プカプカは、「おいらの家に泊まりに来てください」と、手紙を出します。しばらくして、大きなカバン^{せお}を背負ったウミガメのカメ次郎がプカプカの民宿^{みんしゆく}をたずねてきました。



おしえて、世界のおはなし
ロシア



世界でいちばん国土が広く、地球^{りくち}の陸地の8分の1の面積をもつ国です。シベリアには、「永久凍土^{えいきゅうとうど}」という一年中こおりついた土地があります。暖炉^{だんろ}で煮込むボルシチやピロシキは代表的なロシア料理です。



「おおきなかぶ」 A・トルストイ／再話 福音館書店

「てぶくろ」 エウゲーニー・M・ラチョフ／絵 福音館書店

「金のさかな」 A・プーシキン／作 偕成社

「太陽と月とカラス」 タチヤーナ・マーヴリナ／絵 ネット武蔵野

「ジェーナとふしぎなひげじいさん」 カターエフ／作 旺文社

ものがたい

「すみ鬼にげた」 ★★ 岩城 範枝／作 福音館書店



宮大工の見習い少年ヤスは、奈良にある古い寺の修理にやってきました。ある日、ヤスが帰ろうとすると、お堂から

「うおー、うおー」と、泣き声が聞こえてきます。ふしぎに思ったヤスが、お堂をあがっていくと屋根をささえる軒下に、ちいさな鬼が木にはさまれていました。

「リキシャ★ガール」 ★★★

ミタリ・パーキンス／作 鈴木出版



バングラデシュに住むナイマは、絵をかくのが上手な10歳の女の子です。ナイマの家は貧しく、お父さんは朝早く出かけていき、リキシャにお客や荷物をのせて夜中まで働いています。働きづめのお父さんに、楽をさせたいと、ナイマはある計画を思いつきました。

「ピーターと象と魔術師」 ★★★

ケイト・ディカミロ／作 岩波書店

孤児のピーターは、市場で占い師から、「妹は生きている。象が妹のいる場所へつれていってくれる」と、告げられます。「信じられない話だけど、信じたい」と、願うピーターの気持ちにそうかのように、その晩、町のオペラ座で一人の魔術師が、呪文を間違えて象をだしました。



ちしきの本

「親子で楽しむ こどもことわざ塾」 西田 知己／作 明治書院



「犬も歩けば棒に当たる」「花より団子」などのことわざは、古くから伝わる教えを短い句で表したものです。この本には、江戸時代にできた「いろはがるた」のことわざの意味が、イラスト付でわかりやすく紹介されています。



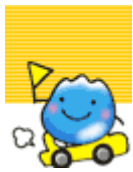
名作をよもう！
今月の1さつ



「赤いろうそくと人魚」(少年少女日本文学館14) ★★

小川 未明／作 講談社

北の海に一人の人魚がいました。人魚は、生まれてくる子どもが、暗い海のなかより人間のすむ町で暮らしたほうが幸せになれると考えました。人魚の産み落とした赤ん坊は、ろうそく屋ろうふうふ ひろの老夫婦に拾われました。娘は、美しく成長しますが、人魚の姿なので外には出られません。家の中で、おじいさんの作った白いろうそくに、赤い絵の具で魚や貝、海草の絵を描きました。ろうそくは、ひょうばん おおぜい評判になり大勢の人が買いにやって来ました。

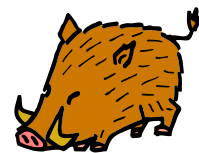


とやまし あ・れ・こ・れ

富山市北代縄文広場



今から約4000年前の縄文時代に、北代周辺には、大集落だいしゅうらくがありました。発掘調査では、縄文時代の堅穴住居跡が75棟、高床建物跡たかゆかたものが4棟確認されています。ここには、復元ふくげんされた堅穴住居があり、狩りや果実、木の実を採ってくらしていた縄文人の生活がわかります。また、土器どきづくりや、火おこしの体験もできますよ。



よみたい本は、よやくもできます。たくさん
よんでね

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272

